意　見　書

●デフリンピックの東京招致を求める意見書

デフリンピックは聴覚障害者のための国際的なスポーツ大会であり、第１回大会は大正13年（1924年）にパリで開催された。日本は、昭和40年（1965年）のワシントン大会から参加しており、100年の節目の大会を東京で開催することは聴覚障害者への理解と社会参加を進める上で、大きな意義がある。

東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして発展させ、デフリンピックを日本の首都東京で開催し、障害のあるアスリートがスポーツの場面で見せる様々な可能性を再び目にする機会をつくることで、パラスポーツのさらなる振興や、共生社会を育む契機となる。

よって、本区議会は、国及び都に対し、２０２５デフリンピックの東京開催に向け、積極的な行動を求める。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和３年12月10日

▷宛先・・スポーツ庁長官、東京都知事

要　請　書

●「ねりまの名木」ヒマラヤスギ並木の保全を求める要請書

練馬区は豊かなみどりに恵まれた住宅都市であり、みどりは私たちに潤いや安らぎを与えてくれる貴重な財産です。防災面、環境面、景観面など多面的な機能を有し、日常生活を送る上で欠くことのできないものです。

区では平成６年に、区内にある練馬を象徴するような大木や、古くから日常生活の中で育まれてきた古木などを将来にわたって保全するため、「ねりまの名木」制度を設けました。学芸大附属大泉中のヒマラヤスギ並木は、制度発足と同時に「ねりまの名木」の指定を受け、長年にわたり地域の皆様に親しまれてきました。

令和３年６月15日に、東京学芸大学附属国際中等教育学校校長から、当該並木を伐採するため、「名木指定解除申請書」が提出されました。理由は、倒木事故等による人身事故を防止するためとのことです。

しかしながら、当該並木は、区が実施した樹木医による樹木診断において健全性が確認されています。当該並木は、適切な剪定により倒木のリスクを回避することができると報告を受けています。

よって、本区議会は、国立大学法人東京学芸大学学長及び東京学芸大学附属国際中等教育学校校長に対し、適切な剪定を行い、当該並木を地域の財産として、引き続き保全されることを強く求めます。

令和３年12月７日

▷宛先・・国立大学法人東京学芸大学学長、
東京学芸大学附属国際中等教育学校校長

補正予算（第四回定例会）　補正予算総額　98億7360万円

- ●新型コロナウイルス感染症対策　53億217万円
  - ・ワクチン３回目接種　48億2614万円
  - ・酸素・医療提供ステーション運営など　４億7603万円
- ●子育て世帯への臨時特別給付（先行給付金）　45億213万円
- ●大泉さくら運動公園多目的運動場人工芝改修工事　6930万円

補正予算（第二回臨時会）　補正予算総額　153億2221万円

- ●住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金　99億8000万円
- ●子育て世帯への臨時特別給付（追加給付金）　44億7505万円
- ●保育士等の処遇改善　８億6716万円

定例会の開催予定

次回の定例会は、2月4日(金)から開催する予定です。

※本会議、各委員会の開催日時や傍聴等については、電話等でお問い合わせいただくか、ホームページでご確認ください。

聴覚に障害のある方で、手話通訳をご希望の方は、事前にお申し出ください。

会議の開催状況

- 11月26日（金）　議会運営委員会
- 29日（月）～12月１日（水）　本会議（所信表明、議案上程等）
- 12月２日（木）　本会議（一般質問）
- ３日（金）　常任委員会（５委員会）
- ６日（月）　特別委員会（４委員会）
- ７日（火）　議会運営委員会
- ８日（水）　本会議（追加上程）
- 10日（金）　本会議（議決）
- 議会運営委員会
- 本会議（先議）
- 常任委員会（５委員会）
- 特別委員会（１委員会）
- 予算特別委員会
- 常任委員会（５委員会）
- 予算特別委員会
- 特別委員会（２委員会）
- 議会運営委員会

◇あとがき◇

あけましておめでとうございます。

謹んで区民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

区議会だより第223号は、令和３年第四回定例会の内容を中心に編集いたしました。

本紙についてご意見・ご要望がございましたら、議会事務局までお寄せください。

◇　◇

広報・図書委員会
委員長　田中ひでかつ
委員長職務代理　酒井　妙子
委　員　井上　勇一郎
やない　克子
島田　拓